

災害を乗り切る、日ごろの備え

平成30年7月豪雨では、各地で死者や多くの被害を出すなど、大きな災害となりました。伯耆町でも、日野川の水位が上昇し、危険が差し迫ったため一部地域に身を守るため、災害に対する日ごろの備えを徹底しました。いざという時に大暴雨特別警報が発表され、避難勧告を発令する事態となりました。

気象庁が発表する気象情報

気象状況に応じ、気象庁から気象情報が発表されます。これは、災害の防止・軽減のため発表されています。気象情報に合わせ、適切な行動をとりましょう。

注意報

- 災害の起こるおそれがある場合に発表されます
- 最新的情報を把握して、災害に備えた早めの準備をしてください

警報

- 重大な災害の起こるおそれがある場合に発表されます
- 町避難情報が発令される可能性が高い状態です。避難情報が発令された場合は、避難情報に従って、適切な行動をとってください
- すでに災害が発生しているかもしくは、重大な災害の起こるおそれが著しく大きい場合に発表されます
- 町から避難情報が発令される。もしくはすでに発令されています。避難情報に従って適切な行動をとってください。避難が困難な場合は気象状況に応じ、自宅内のより安全な場所へ避難するなど、身を守る行動をとってください

特別警報

- 重大な災害の起こるおそれがある場合に発表されます
- 町避難情報が発令される。もしくはすでに発令されています。避難情報に従って適切な行動をとってください。避難が困難な場合は気象状況に応じ、自宅内のより安全な場所へ避難するなど、身を守る行動をとってください

町が発令する避難情報

災害が発生して避難が必要と判断したときに発令する避難情報は、次の3種類があります。

避難準備・高齢者等避難開始

- 避難に時間をする人（高齢者、障がい者、乳幼児など）と、その支援をする人は避難を始めてください
- その他の人も、避難の準備をしてください

避難勧告

- 速やかに避難所への避難を始めてください
- 外出することをかえつて命に危険が及ぶような状況であれば、近くの安全な場所へ避難するか、自宅のより安全な場所に避難するなど、避難行動を始めてください
- 避難情報が発令されたら、避難情報に合わせた行動をとってください。また、避難情報が発表されていないなくても、身の危険を感じたときは、身を守る行動をとってください。
- 避難情報は、テレビ、ラジオなどの放送や、インターネットの災害情報のほか、町の防災無線、ホームページ、CA-TVでお知らせします。

避難指示

- 避難していない人は、すぐに避難所へ避難してください
- 外出することでかえつて命に危険が及ぶような状況であれば、近くの安全な場所へ避難するか、自宅のより安全な場所に避難するなど、避難行動をとってください
- 避難情報が発令されたら、避難情報に合わせた行動をとってください。また、避難情報が発表されていないなくても、身の危険を感じたときは、身を守る行動をとってください。
- 避難情報は、テレビ、ラジオなどの放送や、インターネットの災害情報のほか、町の防災無線、ホームページ、CA-TVでお知らせします。

災害時の情報ツール

災害のリスクを減らすためには、信頼できる情報源を持っておくことが大切です。自分に合ったものを利用して、災害に備えましょう。

●防災行政無線



災害時に、被害状況の報告や避難指示を発令。停電の時でも受信できるように、乾電池を確認しておきましょう。放送が入らない場合は、総務課へご連絡ください。

●町のホームページ

画面上に防災情報・避難情報などを表示します。

●ケーブルテレビ(113ch) 緊急情報放送

画面上に防災情報・避難勧告などを文字で告知します。

●あんしんトリビーメール

鳥取県内の地震速報や避難情報など、設定した地域の防災に関する情報を携帯電話やスマートフォンへメールで配信。無料で利用できます。詳しくは、鳥取県HPをご覧ください。

●災害用伝言板

インターネットやモバイルサイトを利用して、「無事です」「避難所にいます」といった安否情報を文字で登録できます。詳しくは、総務省HPをご覧ください。



9月30日は伯耆町防災訓練です

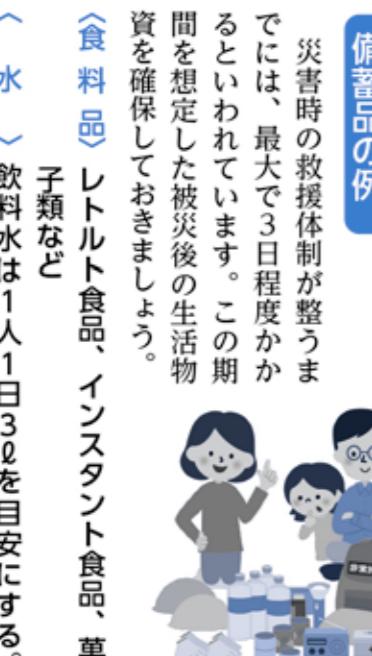
伯耆町区長協議会では、毎年9月に避難訓練を実施しています。訓練実施の有無や内容は集落によって異なりますが、訓練が実施される集落の方は、家族、近所の人に声をかけてぜひご参加ください。

とき
と
そ
の
他
9月30日（日）
各集落

午前8時に訓練用の放送が流れます。

訓練実施の有無や内容は集落によって異なりますので、区長さんにご確認ください。

非常持ち出し品の例
非常持ち出し品は、避難するときにすぐに持ち出せるよう、リュックサックなどに一つにまとめておきましょう。



備蓄品の例
災害時の救援体制が整うまでは、最大で3日程度かかるといわれています。この期間を想定した被災後の生活物資を確保しておきましょう。

飲料品 レトルト食品、インスタント食品、菓子類など
子類など
飲料水は1人1日3㍑を目安にする。
生活用水 (洗濯、トイレなど) は、浴槽や洗濯機にためておく
燃料 卓上コンロ、予備のガスボンベ、固体燃料など